

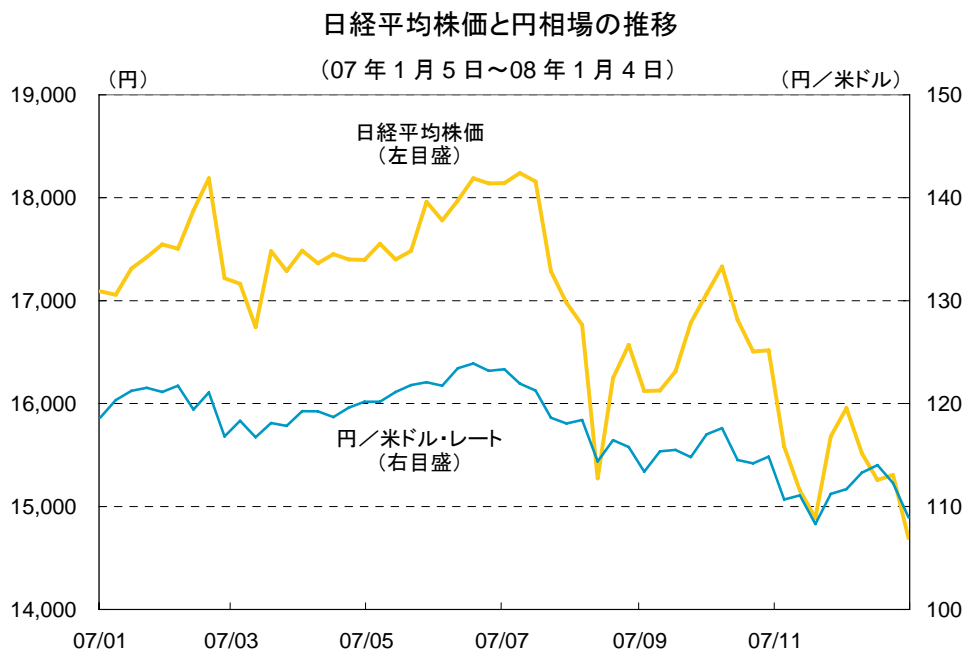
2008年1月4日

投資家の皆様へ

日興アセットマネジメント株式会社
 インベストメントストラテジーグループ
 ジョン・ヴェイル

日本株式市場の急落と円高について

円相場が1米ドル=108円台後半まで急上昇したことなどを受け、2008年最初の取引となった本日4日の東京株式市場では、日経平均株価が昨年末比4%（600円）超の下落となりました。終値は1万4,691円と、07年11月21日につけた昨年来安値（1万4,837円）を下回り、06年7月19日以来の水準となっています。



(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成。)

※上記データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

弊社の見解

米国の経済統計の悪化（特に、11月の耐久財受注やISM（供給管理協会）の12月の製造業景況指数）を受け、円相場が対米ドルで上昇しています。弊社は、米国経済について市場の大勢よりも弱気な見通しをしています。円相場は既に、その弊社の想定（今年3月に1米ドル=110円）を上回る円高となっています。円相場の上昇は、日本の企業収益にとってややネガティブな材料であり、大発会の日本の株式市場は、こうした面と、昨年の大納会以降の世界の株式市場の下落とを反映して大きく下落しました。

■当資料は、日興アセットマネジメントが日本株式市場についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ただし、弊社では、為替相場が幾分安定感を取り戻すと見込んでいます。このため、今年 1-3 月期については、為替相場の動向が株式市場に及ぼす影響は穏やかなものになるとみています。ちなみに、年初からの日米の株式市場の動きを比べると、米ドル建てで見た日本株式は米国株式市場の動きを追っているような状況であり、本日の日本株式の下落を受けて世界の投資家が過度に失望することは無いでしょう。

なお、世界的に見ると、シンガポールの昨年 10-12 月期の GDP（国内総生産）が軟調だったことや、韓国の輸出が悪化傾向にあるといったことも、気掛かりな要因と言えるでしょう。その一方、ドイツおよび日本の雇用は引き続き堅調です。また、昨晚発表された米国の 12 月の自動車販売は市場予想を上回り、米国の消費者が過度な切り詰めを行っていないことを示唆しています。さらに、フランスやスペインでも、12 月の新車登録が非常に力強いものとなっています。

今晚、米国で発表される 11 月の雇用統計と ISM の 12 月の非製造業景況指数は、重要な指標です。しかし、これら統計の短期的な動きがどうあれ、弊社では、日本株式への長期投資やグローバルな資産分散投資は賢明な投資方針であると信じています。

以上

John F. Vail